

農業の新しい技術

No. 729(令和2年(2020年)6月)
分類コード 01-14
熊本県農林水産部

褐毛和種種雄牛「福栄豊」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室
担当者：眞鍋由希

研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

研究の成果

1. 産肉成績に優れ、稀少系統である褐毛和種種雄牛「福栄豊」を選抜した。

○血統

父 玉栄豊 (繁殖 30)	祖父 第四栄豊(1級 557)	— 第三栄豊(1級 475)
	祖母 ちよなみ(特級 7703)	— 玉波(高 70)
母 ふくひめ☆ (産肉 844)	祖父 第十六光重(育高 2)	— 光重E T(育高 1)
	祖母 みつひめ(育高 673)	— 第三光丸(高 71)

○登録番号：繁殖 2 2 1

○生年月日：平成 2 7 年 5 月 5 日

○生産地：阿蘇市(杉谷 隆徳)

2. 現場後代検定成績および育種価

○脂肪交雑は去勢 4.10、雌 3.50、平均では 3.88 であり、育種価も +2.17(評価種雄牛 526 頭中 23 位)と高かった。

○枝肉重量は去勢 505.8kg、雌 463.6kg、平均 490.0 kg であり、育種価も +28.90 kg(評価種雄牛 526 頭中 44 位)と高かった。

○SBVは枝肉重量 1.41、脂肪交雑 1.90、ロース芯面積 1.23、バラの厚さ 0.75、皮下脂肪の厚さ -0.01 であり、脂肪交雑と枝肉重量の改良効果が大きいと推定される。

※SBV(標準化育種価)とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするために、各形質の育種価を同一スケール上で比べられるようにしたもの。値が +1 以上の場合、改良効果が高いことを示す。

3. 特徴

本牛は朝栄系の「玉栄豊」を父とする稀少系統種雄牛でありながら、枝肉重量が去勢では 500 kg を超え、脂肪交雑も 4.1 と高く産肉成績も良好であるため、遺伝的多様性の維持への貢献が期待される。また、性質が極めて温順であるため、飼いやすさの改良効果も期待される。



福栄豊 (ふくえいほう)

格付け:A-5 枝重:601.4kg
 BMS No:8 ロース:69cm²
 ばら8.8cm 母の父:光晴重

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMS No.)	ロース 芯面積 (cm ²)	バラの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	日齢枝肉 重量 (g)
去勢	10	505.8	4.10	58.3	7.7	3.4	666.3
雌	6	463.6	3.50	56.3	7.7	3.2	599.4
全体	16	490.0	3.88	57.6	7.7	3.3	641.2

表2 育種価(BV) (R2.2月評価)

	順位	育種価	(正確度)
枝肉重量	44	28.902	0.87
脂肪交雑	23	2.168	0.90
ロース芯面積	49	5.033	0.86
ばらの厚さ	98	0.249	0.86
皮下脂肪の厚さ	264	-0.042	0.89
日齢枝肉重量	44	38.844	0.87

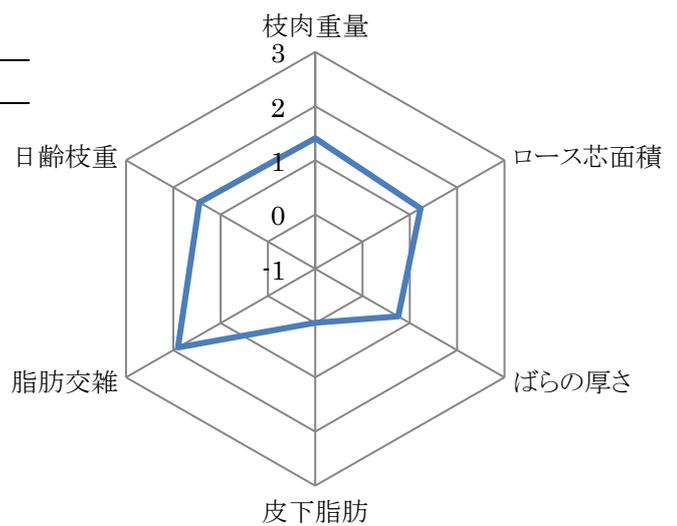


図1 SBV (標準化育種価)

- ※ 産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるように処理したもの
- ※ 皮下脂肪は逆符号

※ 後代頭数 18 頭(フィールド成績を含む)
 ※ 順位は評価種雄牛 526 頭中の順位